

ご挨拶

第31回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 金 井 誠
信州大学 医学部保健学科 教授

第31回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を、2021（令和3）年6月4日（金）～5日（土）の2日間、「信州松本」（長野県松本市）で開催させていただきます。

本学会は15年間の研究会と合わせて45年の歴史を持ち、産婦人科医、新生児・小児科医、血栓止血を中心とした血液学の研究者達が、基礎から臨床までの幅広い研究成果を共に議論し合うという特色ある学会であり、伝統ある本学会の学術集会長を拝命し、大変光栄に存じます。

さて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、ソーシャルディスタンス、三密といった言葉の流行と共に、人と人との直接的な接触や物理的な繋がりを断ってしまう流れを生んでいます。

しかし、組織や人の繋がりは明るい未来を築くために極めて重要です。本学会においても、職業人としての組織や人の連携はもちろん、過去・現在・未来の繋がりにから継続とイノベーションが生まれます。

COVID-19の収束は見通せない状況ですが、学問と医療の発展を停滞させてはなりません。今回の学術集会のテーマは“繋がる”としました。ベテランから若手まで、多職種が繋がり、活発な議論が展開されることを期待しています。

教育講演としては、奈良県立医科大学化学教室教授の酒井宏水先生らに「人工赤血球の開発と臨床応用」信州大学医学部小児科学教室教授の中沢洋三先生に「難治性がんに対するCAR-T療法の開発～臍帯血の可能性～」、浜松医科大学産婦人科学教室教授の伊東宏晃先生に「Developmental origins of health and disease (DOHaD)」について、未来に繋がるお話をいただく予定です。また、シンポジウム『血液から見る未来』ワークショップ『産科DICスコア改訂に向けて』などの企画を準備しております。

松本での学術集会開催は1996年の第6回（小宮山淳会長、信州大学医学部小児科教授）以来、25年ぶりとなります。松本は、学都・岳都・楽都の3つの『がくと』を看板にした、自然豊かで快適な土地です。信州の澄んだ空気と美味しい水、歴史と風情のある街並み、多くの温泉や絶品のお酒と郷土料理なども、是非ご堪能頂ければ幸いです。皆様と松本でお会いできることを心より楽しみにしております。

2020年11月吉日

<一般演題募集について>

2020年（令和2）12月1日（火）～2021年1月31日（日）となっております。

COVID-19の影響により延期となった第30回学術集会（2020年12月25-26日）の開催前から、第31回学術集会の一般演題募集を開始することになりますが、ご容赦願います。

多くの皆様にご参加いただけることを祈願しております。詳細は演題募集要項をご覧ください。

URL； <http://www.jsognh.jp/scientific/provision.php>

